

「砥部町人口ビジョン及び砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略」へのご意見と
これに対する町の考え方

(提案意見)

砥部町人口ビジョン 0件

砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略 3件 (うち対象外1件)

※ 取りまとめの便宜上、お寄せいただいたご意見は、適宜要約しています。なお、砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略に直接関係ないと判断した意見については、掲載しておりませんので、ご了承ください。

また、パブリックコメント対象者以外からの意見については、除外していますのでご了承ください。

番号	いただいたご意見	ご意見に関する町の考え方
1	(結婚応援事業について) 婚活イベントは県でも行っているため、県と連携して行えばいいのではないのでしょうか。	婚活イベントについては、総合戦略にも掲載している連携中枢都市圏事業において連携して行う事業と、本町単独で行う事業を予定しています。 ご意見のとおり、連携して行うイベントのメリットもありますが、砥部町らしさを活かしたイベントが開催できないというデメリットもありますので、砥部町らしさを活かした婚活イベントの開催も行いたいと思います。
2	(結婚応援事業について) 記念日を祝っても、それが定着には繋がらないのではないのでしょうか。それより、教育、地域との結びつき、子育てしやすさ、教育環境、働きやすさを支援すべきではないのでしょうか。	結婚は人生の転機であり、結婚式の思い出は一生残るものですが、法的に結婚が認められるための手続きである婚姻届のことを覚えている人は、それほどいないのではないのでしょうか。 当町では、婚姻届を思い出とすることで、当町への愛着を持ってもらい定住に繋がりたいと考えています。 当然、このことだけで定住に繋がるとは考えていませんので、ご意見にあった教育や子育て支援、就労支援についても総合戦略における各事業で支援したいと考えています。

3	<p>(産前産後総合支援事業について)</p> <p>不妊治療や妊産婦への支援はどの市町村でも行っています。晩婚後、子どもが出来ず慌てる事がないように、妊娠・出産に関する正しい知識を身につける講座を行ったり、自身のライフデザインを考えるきっかけ作りを学校や企業で行うことを支援するなど、砥部町独自の支援をしてはどうでしょうか。</p>	<p>妊娠出産に関する正しい知識の普及の場につきましては、若い世代の男女に対する知識の普及が重要と考え、町内全小学校高学年、中学校全学年の生徒に対し、町保健師と養護教諭が連携し思春期教室を経年的に開催しており、今後も学校教育と連携しながら、性教育の推進に努めていきたいと考えております。</p> <p>また、平成28年度から新規事業として、妊娠・出産・育児期間中の方を対象に、産前・産後の悩みや困りごとの相談や学習、参加者同士の座談会等を通して交流ができる場として「産前産後ケア充実事業」を開催する予定です。</p>
4	<p>(産前産後総合支援事業について)</p> <p>10代～20代の予期しない・望まない妊娠や未婚での妊娠など、産めるけど育てられない人に対して、中絶以外の方法(里親制度の積極的な周知など)による支援をしてはどうでしょうか。</p>	<p>里親制度の周知等につきましては、愛媛県が広報紙やホームページで行っているため、今後も愛媛県と連携して里親制度の周知等を行っていききたいと思います。</p>
5	<p>～(ウ)『働きたい』が叶うまち』～を、～(ウ)『働きたい・働き続けたい』が叶うまち～としてはどうでしょうか。</p>	<p>各プロジェクトの副題につきましては、短いながらもインパクトのある言葉を用いています。『働きたい』というフレーズには『働き続けたい』という想いも含めていますので、現状のままにしたいと思います。</p>
6	<p>(女性就労環境整備事業について)</p> <p>ワーク・ライフ・バランスの実現という言葉が多くみられるが、ワーク・ライフ・バランスは、日本ではまだ成熟した概念になっていない。人によってイメージが異なり、誤解も多いため、どのような状態がワーク・ライフ・バランスが実現した状態なのかを具体的に発信する必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>ワーク・ライフ・バランスは、ご指摘のとおり出産・育児との両立支援に限らず、各個人の年齢や置かれている状況によって変化していくもので、概念の普及が十分とは言えない状況です。</p> <p>総合戦略では、町主催セミナーの開催を計画しており、一人ひとりの価値観や人生観にあった働き方のできる環境の整備に向け、先進事例と併せ、正しい概念の普及啓発に取り組みたいと思います。</p>

7	<p>(女性就労環境整備事業について)</p> <p>育休取得を支援するのであれば、単に事業所に奨励金を出すだけではなく、「新しい働き方にチャレンジする」事業所を開拓、支援する支援を行ってはどうでしょうか。</p>	<p>ご意見のとおり、育休奨励金の交付だけで十分なワーク・ライフ・バランスの実現につながるとは考えておりません。</p> <p>奨励金の交付を足掛かりとして、意欲的な企業の開拓・発掘に努めることにより、今後の総合戦略の効果検証・見直しのタイミングでの新たな支援施策へのステップにしたいと思えます。</p>
8	<p>(農林商工業振興事業について)</p> <p>砥部焼の競争力強化のため、地域の人からのアイデアや消費者のニーズを行政が事業者提供する仕組みを作ってはどうでしょうか。例えば、砥部焼まつりの際などにアイデアやクレーム、要望等をカードに書き込んでもらい、1アイデアにつき、数十円の会場で使用できる金券と交換することなどにより、消費者＋地域のアイデア発掘し、各事業所各窯元に提供してはどうでしょうか。</p>	<p>砥部焼まつり等のイベントの際にアンケートを実施し、アイデアやクレーム、要望等をお伺いすると共に、回答して頂いた人にビンゴカードを配布し、プレゼントが当たるイベントを2年前から実施しています。</p> <p>また、アンケート内容については、良かった点ではなく、敢えて悪かった点を記載してもらうようにし、アンケート結果を各事業所や各窯元にフィードバックすることにより改善を図る仕組みとしています。</p>
9	<p>(広田地区少人数教育支援事業について)</p> <p>目標として『山村留學生徒数 25 人』とありますが、山村留學生徒数が 10 人台で推移している状況では、目標数値に無理があるのではないのでしょうか。山村留學生獲得に関する具体的な施策を計画してください。</p>	<p>目標値は、留学センターの定員としてあります。ご指摘のとおり児童数は平成 19 年度以降 10 人前後で推移していますが、校区の広がりにより、自然や地域に根付いた従来の体験活動を拡充するとともに、タブレット端末を活用した ICT 教育の充実など、他校にはない教育施策に取り組み、就学先となる広田小学校の魅力を高めることで、留學生の確保に繋がりたいと考えています。</p>